

学校教育目標	<p><b>「みんなと のびる」</b> ～自ら学び 関わり 高まりあう 児童の育成～</p>	経営理念	<p>【ミッション】生涯にわたって主体的に学び、多様な他者と協働し高まりあおうとする人間力を育成する(ビジョン) 1 児童一人一人が、自己存在感を実感し、共感の人間関係の中で「豊かな心」を育むことができる温かい学校 2 児童一人一人が、学ぶ楽しさを実感し、みんなと伸びる中で「確かな学力」「たくましい心」を育む学校 3 教職員一人一人が、児童に対する愛情と教育に対する使命感を持ち、専門性を発揮しながら対応できる組織的な学校 4 「開かれた教育課程」のもと、家庭や地域と連携し、伝統の継承と創造を実現する学校</p>
--------	---	------	--

評価計画					自己評価										学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	評価基準				達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							4	3	2	1	10月	2月						
豊かな心(徳)	1	多様な他者を尊重し、協働できる児童の育成	いじめ、不登校、問題行動のない学校・学年・学級づくり 東広島スタンダードの定着	学校・学年・学級経営の充実(情報の共有化と組織的な対応) 縦割り班活動の充実 無言排除、無言移動、無言集合の徹底 ノーチャイムによる学校生活 キラカラカードの活用 心のサポーター、スクールカウンセラーの活用	「3つの無言(今年度重点目標『無言移動』ができた)項目での、児童の肯定的評価を80%以上にする。	80%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	89.2%	83.7%	105%	3	「3つの無言『無言移動』ができた」項目での、児童の肯定的評価は84%で、目標値を上回った。しかし、教職員と児童の意識と差が見られる。教職員の指導と目標設定にも差があり、全校で統一された基準等、一貫した指導体制を整える必要がある。	A	・教職員の意識の差異が改善されるような取組を期待している。 ・教職員間で意識統一し、一貫した指導体制を作ることが重要である。 ・よい取組なので今後も継続して更に評価を上げてほしい。	教職員での一貫した指導を行うための研修を取り入れ、3つの無言に関する教職員での意識統一を図る。また、児童に課題シートを作成すること、児童会活動や委員会活動を企画した児童による全校的な取組を企画、立案させていきたい。
					「よく挨拶をする」項目での、保護者の肯定的評価を70%以上にする。	70%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	64%	68%	97%	3	「よく挨拶をする」項目での、保護者の肯定的評価は88%であった。中間評価より、4%向上した。缶バッチ効果により校内で挨拶をする児童は、増加傾向である。地域や家庭でも挨拶をする児童を増やす取組を考えていく必要がある。	A	・見える化の一環として缶バッチ効果は素晴らしいと思う。 ・地域と連携して相乗効果を発揮してほしい。 ・挨拶することで、周りの人も良い気持ちになれることを定着させてほしい。	挨拶の質の向上を促すために、どのような挨拶がよいか全校で考えていきたい。また、来年度は地域での挨拶をより活発にするために、安全ハトロール隊の方との連携を密に行っていく。
確かな学力(知)	2	主体的、対話的に深く学ぶ児童の育成	個別最適な学びの実現 協働的な学びの実現 基礎学力の向上	ユニバーサルデザインの視点による授業づくり(場、ルール等) 授業研究を中心とした校内研修等による教師の授業力の向上(指導方法の工夫と改善) GIGAスクール構想の推進(ICTの活用による学びの充実) 探究的な学習や体験活動の充実 自学コンクールの実施	「なぜだろう、やってみたいと思う」項目での、児童の肯定的評価を90%以上にする。	85%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	86.7%	91%	101%	3	概ね目標を達成することができた。「課題の設定」過程や本時のあての指定までの流れにおいて、児童に学習内容への疑問や目的意識を持たせる工夫を行っていたことが、児童の意識や学習意欲に繋がったと考えられる。しかし、問題や課題に引きつけられはいるものの、児童の学習意欲の持続には至っていない。	A	・子ども達が積極的に授業に参加している姿が見られた。 ・課題設定は、学習においてたいへん重要な過程であるので継続して取り組んでほしい。	本時の山場場面において協働的な活動を積極的に取り入れた。単元の達成においても児童の興味や関心を再び増進するような事象を提示したりするなど、主体的な学びへのさらなる工夫をしていく。
				「〇〇科(研究教科等)の授業が楽しい、よくわかる」項目での、児童の肯定的評価を85%以上にする。	85%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	92%	92%	108%	3	概ね目標を達成することができた。授業チェックシートや児童アンケートの結果によると、一貫した取り組みにおいて、ユニバーサルデザインの視点を実践して自立を促すことにて、本時のねらいを確実に達成することができた。児童の「できた、わかった」に繋がった。また、「やってみたい」と思われる導入の工夫しこも効果的であったと考える。今後は、その効果を評価していきたい。	A	・全員がわかりやすい授業というのは難しいかもしれないが、工夫を進めてほしい。 ・ユニバーサルデザインの考え方も有効に機能していると思うので継続してほしい。	・全員の児童によりよくなる授業になるようにする。「やってみたい」と思われる導入の工夫や必然的な距離感を見守り、各教科の楽しいを引き出していく。教科等の見直し方を働かせ、友達と協働的に活動する場面や友達先などを通して考えを深めたいような授業改善を仕組む。	
				国、算、社、理の中から任意の1教科について、単元末テストの学級平均点を85点以上にする。	85点	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	86点	87点	102%	3	概ね目標を達成することができた。授業研究を中心とした校内研修、学年部で教材研究をすることを通じて、「つけた力」を明確にし、手立てを考へることができた成果と考える。学年が上がるにつれて個人差が大きくなり、得意がなくなる傾向にある。また、国語科を除く教科で観点別にも、「思、判、表」に課題がみられる。授業改善で基礎的な知識は身に付けているが、それらを使って発見的に思考したり、表現したりすることは課題があるといえる。	A	・学習規律の徹底が基礎にあると思う。 ・子供たちの理解力と表現力、語彙力の向上をもっと伸ばせたいと思う。 ・学年部での教材研究や模擬授業等を通して、指導方法の工夫と改善を行い、教師の授業力の向上を図る。	今年度の研修生をかねて、ユニバーサルデザインの視点による授業づくりを継続していく。特に年度初めの学習規律の徹底を図る。	
たくましい体(体)	3	健康でたくましい心と体の育成	望ましい生活習慣の確立 体力、運動能力の向上	健康教育の充実 体育科授業の充実 体育的行事の充実(感染症対策等の周知、徹底)	「運動やスポーツに取り組んでいる」項目での、児童の肯定的評価を85%以上にする。	85%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	81.2%	91%	107%	3	肯定的評価の割合が上がり、概ね目標達成を果たしている。毎週水曜日をプログラム身体日として、外遊びを奨励した効果と考える。また、「なわとび大会」のような体育的行事が目立ち、意識して運動しようとする児童の増加が認められたからである。課題は、運動経験の少ない児童の固定化である。	A	・ロング昼休みのびる日が運動していて素晴らしい。 ・子ども達からの評判がよいので継続してほしい。 ・運動する機会が増加するように取組を図ってほしい。 ・先生と遊んだことが、印象に残っていると思う。	休憩時や体育科授業の導入等において児童が取り組みやすく、かつ運動技能向上につながる運動遊びを軸に運動やスポーツに触れる機会を取り組みたいと思う取組機付けを行う。運動の日常化を図り、短時間でも行うことで、過剰な運動時間(合計)の増加につけていく。
				「立ち幅跳び」、「反復横跳び」において、体力テストにおける得点平均が、前年度の当該学年を0.1ポイント以上上回る。	101%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	103%	99%	98%	3	概ね目標を達成することができた。体育科授業で、跳ぶ力の向上を意識した取組があったこと、「なわとび大会」等の体育的行事で、運動意欲をもって児童自身が跳躍力を高める取組を行う頻度が高まったからと考える。課題は、体力テスト全般を見てみると、県平均等との比較で下回る項目が増えたことである。	A	・校内スポーツ大会は、クラスや個人の目標ももてるよい取組である。 ・「立ち幅跳び」「反復横跳び」のスキルを分析し、上達させるための練習を回している調査項目が見られる。 ・これから運動能力向上に向けた取組を期待していく。	令和5年度の体力テストの結果から、柔軟性に課題があることが分かった。また、学年個別にみると、前年度の教員を回している調査項目が見られる。教師の指導力および経験を向上させ、より効率的に各運動能力の向上が見込める指導法の工夫と実施の徹底を行う。	
				「立ち幅跳び」、「反復横跳び」において、体力テストにおける得点平均が、前年度の当該学年を0.1ポイント以上上回る。	101%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	103%	99%	98%	3	概ね目標を達成することができた。体育科授業で、跳ぶ力の向上を意識した取組があったこと、「なわとび大会」等の体育的行事で、運動意欲をもって児童自身が跳躍力を高める取組を行う頻度が高まったからと考える。課題は、体力テスト全般を見てみると、県平均等との比較で下回る項目が増えたことである。	A	・校内スポーツ大会は、クラスや個人の目標ももてるよい取組である。 ・「立ち幅跳び」「反復横跳び」のスキルを分析し、上達させるための練習を回している調査項目が見られる。 ・これから運動能力向上に向けた取組を期待していく。	令和5年度の体力テストの結果から、柔軟性に課題があることが分かった。また、学年個別にみると、前年度の教員を回している調査項目が見られる。教師の指導力および経験を向上させ、より効率的に各運動能力の向上が見込める指導法の工夫と実施の徹底を行う。	
地域とともにある学校づくり	4	保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり	保護者、地域と連携した「共育」の推進  「働き方改革(業務改善)」の推進	学校運営協議会制度の推進(地域団体との交流、学校支援ボランティアの活用) 学校教育活動に関する情報発信の充実	「学校は、保護者や地域と連携を密にしている」項目での肯定的評価を90%以上にする。	90%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	90%	91%	101%	3	肯定的評価が90%、否定的評価が4%であった。感染症対応も緩和され、参観日や学校行事等が、感染症の流行前の状態に戻りつつあり、学校教育活動の様子を参観していただく機会や懇談会、地域学習等の、教職員と保護者や地域と児童が関わる機会が増えたことも要因と考える。	A	・学校が総合的な学習の時間で夏祭りや冬祭りを題材にして学習を深め、児童が主体的な学習者として探究を進めることができる。 ・休日の地域行事への協力に課題があるので改善してほしい。	事実発生後の連携は、マイナスイメージのものが多いため、問題行動等の未然防止に努める。探究要素の連携を意識した日常的な方向連携を心掛ける。地域の教育資源(ひと・もの)を活用し、地域愛を育む取組を強化する。
				「学校の教育活動や児童の様子がよくわかる」項目での肯定的評価を90%以上にする。	90%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	94%	97%	107%	3	肯定的評価が97%あり、「学校だより」や「学年だより」、HP等の情報発信や、教職員等による保護者等への連携が効果的に行われていることが考えられる。	A	・保護者だけでなく、地域にも学校だよりが回覧されている。 ・丁寧な報告等に感じている。	引き続き「学校、学年だより」、HP等の充実を図り、教育活動や家庭、地域、学校が連携した「共育」の推進について関心や参画意識を高めていく。	
				勤務時間外在校時間月平均60時間以上(年平均)の教職員を0%にする。	0%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	12%	0%	100%	3	勤務時間外在校時間月平均60時間を超える教職員は0%であった。年休取得日数も増加している。日課表の見直しによる計画的な業務推進や研修日の設定等の効果が考えられるが、持ち帰り仕事は課題である。	A	・校長が中心となって働き方改革の推進を図っていることが評価できる。 ・持ち帰り仕事をなくしていくのは非常に難しい根本的な改善が必要である。	引き続き、業務推進のため効率的な日課表や週予定、月予定の工夫・改善の検討を行う。業務の精選やICTの活用等により、さらなる効率化を図る。	
				「所属校は、働きやすい職場である」項目での肯定的評価を90%以上にする。	90%	110%以上	95%以上	85%以上	85%未満	100%	91%	101%	3	達成度は減少しているが、肯定的評価の数は増加している。東広島市スクールサポート事業、学校ボランティア等の活用により、教職員に対する効果的な支援ができてきていることや、「のびる日(宿題なし)」の設定等も、教職員とのやりとりにつながっていると考えられる。	A	・「働きやすい」や「働きがい」の両立を目指す。教職員の一人一人のキャリアアップに合わせたキャリアプランの実践を支援する組織・環境づくりを進めるとともに、長期的な展望をもった人材育成を推進する。若手と中堅の融合を図る。		